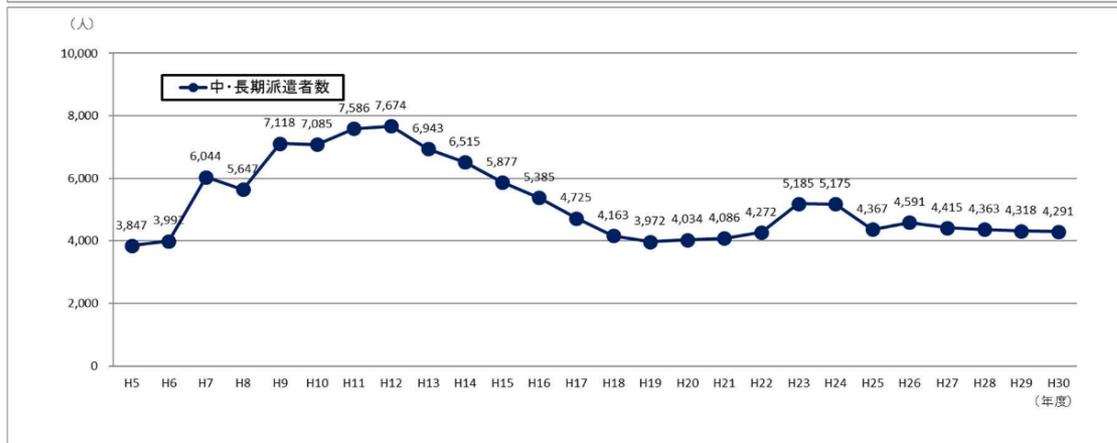
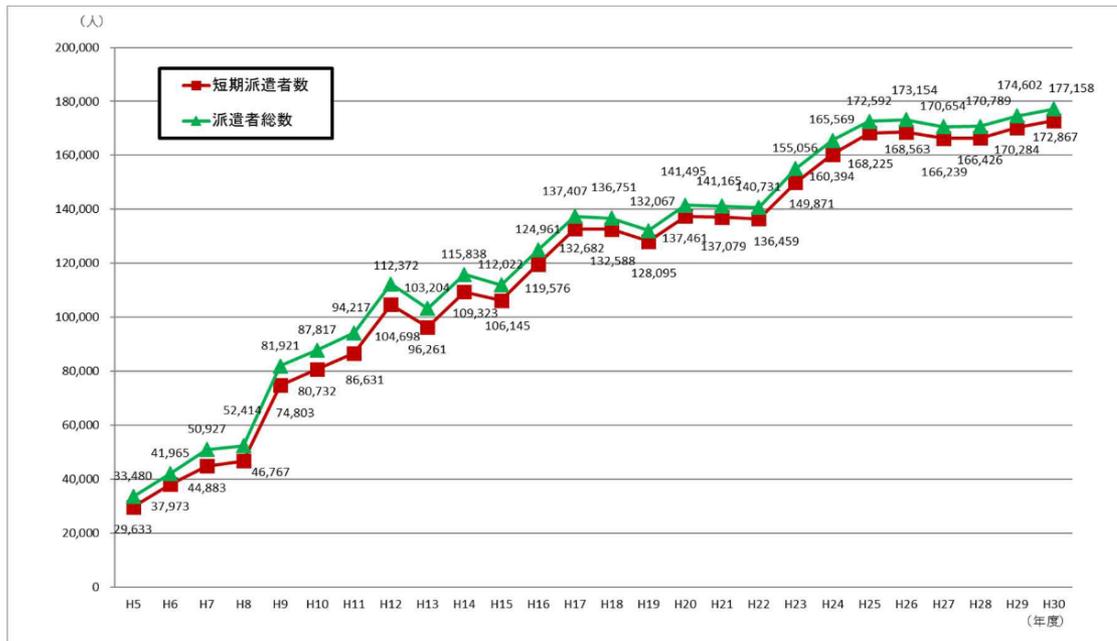


■ 海外への派遣研究者数

【図1】 海外への派遣研究者数（総数／短期／中・長期）の推移

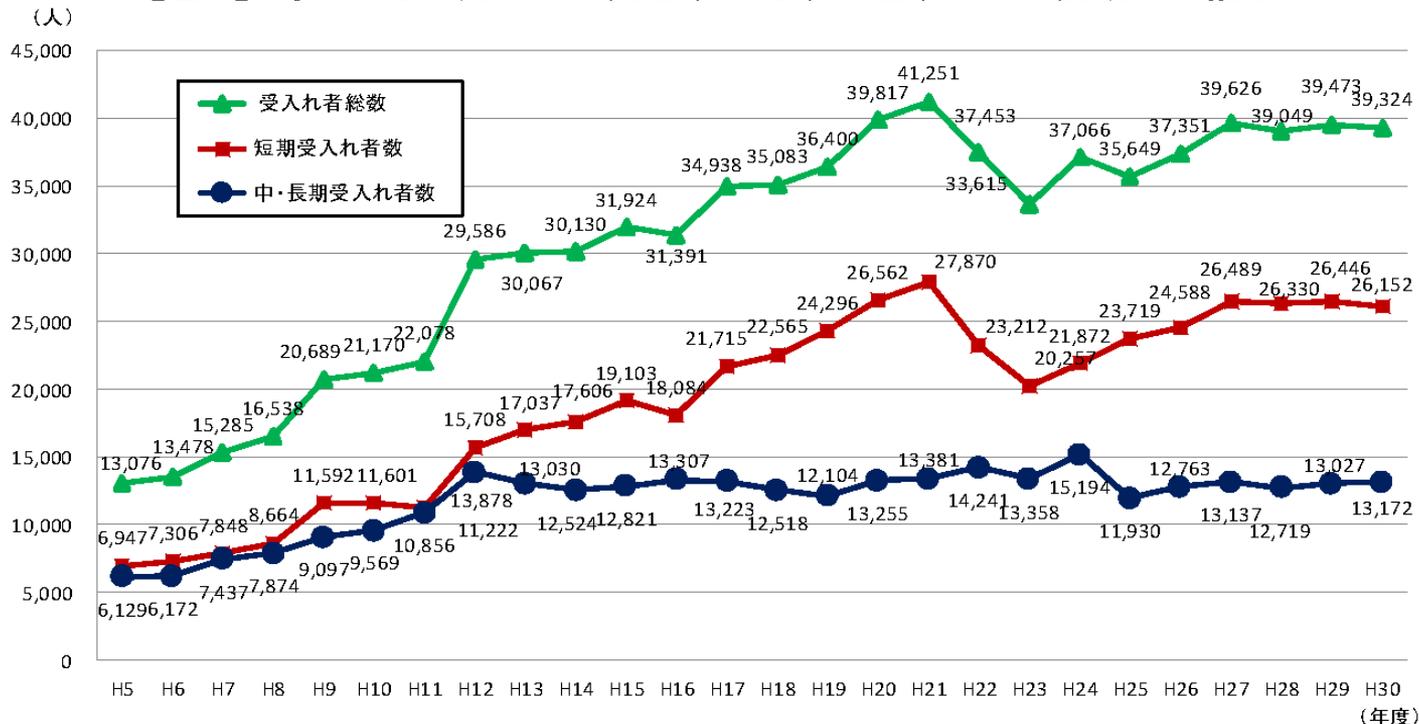


文部科学省(2020年2月)
国際研究交流の概況(平成30年度の状況)より

- ※ 本調査では、1か月(30日)以内を短期とし、1か月(30日)を超える期間を中・長期としている。
- ※ 派遣研究者数については、平成19年度以前の調査ではポスドク・特別研究員等を対象に含めるかどうか明確ではなかったが、平成20年度調査からポスドクを、平成22年度調査からポスドク・特別研究員等を対象に含めている。
- ※ 平成23、24年度の中・長期派遣者数の増加要因については、「組織的な若手研究者等海外派遣プログラム」(日本学術振興会)による中・長期海外派遣実績の影響が大きい。

■ 海外からの受入れ研究者数

【図2】 海外からの受入れ研究者数（総数／短期／中・長期）の推移



文部科学省(2020年2月)

国際研究交流の概況(平成30年度の状況)より

- ※ 本調査では、1か月(30日)以内を短期とし、1か月(30日)を超える期間を中・長期としている。
- ※ 短期の場合、平成21年度まで増加傾向であったところ、東日本大震災等の影響により平成23年度にかけて減少したが、その後の4年間で回復し、近年はおおむね同水準で推移している。
- ※ 受入れ研究者数については、平成21年度以前の調査ではポスドク・特別研究員等を対象に含めるかどうか明確ではなかったが、平成22年度調査から対象に含めている。
- ※ 平成25年度調査から、受入れ外国人研究者の定義を変更(同じ年度内に同一研究者を複数機関で受け入れた場合の重複を排除)している。

■ 文部科学省 第10期国際戦略委員会(第1回)(2019年3月) 科学技術・学術政策局資料より

(3) 国際

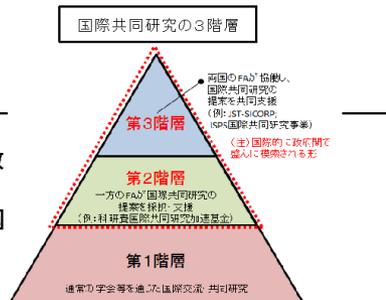
GSTI有識者議員懇談会
文部科学省資料(平成31年1月17日)

①国際化・国際頭脳循環、国際共同研究

現状とこれまでの取組

- 我が国は研究者の国際流動性が低い。また、欧米・中国を始めとする諸外国と比較すると、国際共著論文数の伸びが非常に低く、国際頭脳循環への参画に課題。
- 国際頭脳循環に参画する主要国は、国際的な共同研究(結果的に国際共著論文)の振興と自国研究者の国際ネットワーク構築を非常に重視しており、第3階層・第2階層の国際共同研究の予算を増やしている。

このような現状を踏まえ、以下の取組を実施。



○グローバルに活躍する若手研究者の育成・確保
国際的な頭脳循環の進展を踏まえ、我が国において優秀な人材を育成・確保するため、若手研究者に対する海外研鑽機会の提供や諸外国の優秀な研究者の招へい等を実施。

【海外特別研究員事業】
・優れた若手研究者に対し所定の資金を支給し、海外における大学等研究機関において長期間(2年間)研究に専念できるよう支援。

【外国人特別研究員事業】
・外国人若手研究者を大学・研究機関等に招へいし、国際化の進展を図っていくことで我が国における学術研究を推進。

【国際競争力強化研究員事業】
・若手研究者の世界トップクラスの大学等における挑戦的な研究や、国際的なネットワーク形成を支援。

○大学の国際化・グローバル人材育成等

【国際連携教育課程(ジョイント・ディグリー)制度】
・外国大学と連携した教育課程を編成し、1枚の学位記に連名で学位を授与

【スーパーグローバル大学創成支援事業(SGU)】
・「大学改革」と「国際化」を断行し、高等教育の国際通用性、国際競争力の強化を図り、優れた能力を持つ人材育成する環境基盤の整備を推進。

【大学の世界展開力強化事業】
・戦略的に重要な国・地域の大学と質保証を伴った連携・学生交流を進め、国際的通用性を備えた質の高い教育の実現、我が国の大学教育のグローバル展開力を強化。

【世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)】
・大学等への集中的な支援を通じてシステム改革等の自主的な取組を促すことにより、高度に国際化された研究環境と世界トップレベルの研究水準を誇る「目に見える国際頭脳循環拠点」を充実・強化。

○相手国との協働による国際共同研究の推進
国際頭脳循環への参画・研究ネットワーク構築を牽引すべく、相手国との国際共同研究の共同公募を強力に推進。また、開発途上国のニーズに基づき地球規模課題の解決と将来的な社会実装に向けた国際共同研究も推進。

<国際共同研究プログラム>

【戦略的国際共同研究プログラム(SICORP)】
・相手国との共同公募を行い、国際共同研究を強力に推進。

【地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム(SATREPS)】
・我が国の優れた科学技術と政府開発援助(ODA)との連携により、地球規模課題の解決と将来的な社会実装に向けた国際共同研究を推進。

<国内向けプログラムを活用した国際共同研究>

【戦略的創造研究推進事業(CREST)】
・平成30年度は2つの研究領域において、フランスANRとの日仏国際共同研究の公募を実施。

主な課題

- 海外から国内のアカデミックポストへ応募の際の手続きに困難さが残る等、大学等の国際化に向けたモデル事業による大学全体の組織体制や組織文化の改革は道半ば。そのような背景もあり、国際交流や国際共同研究の促進策の効果が最大化されていない。
- 国際共同研究の促進策(共同公募、共同支援等)は実施されているが、他国の動向に比し、規模が小さく、量が少ない。

今後の方向性

- SGUやWPI等の取組の遂行による大学組織全体の改革、他大学・研究機関への成果の横展開(大学・研究機関における国際化推進)
- ポスト公募における海外からの応募に係る負担の軽減等(Web応募の拡大等)
- 国際共同研究の強化(国際共同研究プログラムの拡充、国内向け研究費を活用した国際共同研究の推進)

■ 日本学術振興会 ホームページ 事業のご案内ページより

[文字サイズ変更](#) 小 **中** 大 [サイト内検索](#) [サイトマップ](#)

[一般の方へ](#) [研究者 / 機関担当者の方へ](#) [English](#)

[日本学術振興会について](#) [事業のご案内](#) [事業の成果](#) [調達情報](#) [職員採用情報](#) [情報公開](#) [アクセス方法お問い合わせ](#)

[TOP](#) > [事業のご案内](#)

事業のご案内

研究助成事業

- ▶ **科学研究費助成事業(科研費)**
- ▶ 課題設定による先進的人文学・社会科学研究推進事業
 - ▶ 領域開拓プログラム
 - ▶ 実社会対応プログラム
 - ▶ **グローバル展開プログラム**
- ▶ 人文学・社会科学データインフラストラクチャー構築推進事業
- ▶ **世界トップレベル研究拠点プログラム(WPIプログラム)**

社会との連携の推進

- ▶ ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
- ▶ サイエンス・ダイアログ～科学で世界とつながれ～
- ▶ 卓越研究成果公開事業
- ▶ 学術の社会的連携・協力推進事業
- ▶ 寄付金事業
- ▶ 広報活動
 - ▶ イベント
 - ▶ 学振トピックス
 - ▶ メールマガジン
 - ▶ パンフレット
 - ▶ 学振シンボルマーク

研究公正推進事業

- ▶ 研究公正

学術国際交流事業

- ▶ 国際的な研究を実施したい方へ(新規募集のある事業一覧) (PDF:218KB)
- ▶ 国際的な共同研究等の促進
 - ▶ 二国間交流事業(共同研究・セミナー)
 - ▶ 特定国派遣研究者
 - ▶ 日独共同大学院プログラム
 - ▶ 国際共同研究事業
 - ▶ 日中韓フォーサイト事業
 - ▶ 研究拠点形成事業
- ▶ 国際研究支援ネットワークの形成
 - ▶ グローバルリサーチカウンスル(GRC)
 - ▶ アジア学術振興機関懇談会(ASIAHORCs)
 - ▶ 研究者コミュニティ形成支援(JSPS同窓会)
 - ▶ 研究者/研究支援者専用SNS(JSPS-Net)
- ▶ 若手研究者への国際的な研鑽機会の提供
 - ▶ HOPEミーティング
 - ▶ ノーベル・プライズ・ダイアログ
 - ▶ 先端科学(FoS)シンポジウム
 - ▶ リンダウ・ノーベル賞受賞者会議派遣事業
 - ▶ 若手研究者のための学術セミナー・ワークショップ
- ▶ 諸外国の優秀な研究者の招へい
 - ▶ 外国人研究者招へい事業
 - ▶ 外国人特別研究員
 - ▶ 外国人招へい研究者
- ▶ 論文博士号取得希望者に対する支援事業
- ▶ JSPS Fellows Plaza
- ▶ その他
 - ▶ 日本学術振興会第4期中期計画に係る国際戦略(JSPS国際戦略) (PDF:163KB)
 - ▶ 海外対応機関等一覧

人材育成事業・大学の教育研究機能の向上

- ▶ 特別研究員
 - ▶ 若手研究者の海外派遣
 - ▶ **海外特別研究員**
 - ▶ 若手研究者海外挑戦プログラム
 - ▶ 国際的な活躍が期待できる研究者の育成事業
 - ▶ 顕微鏡環境を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム
- ▶ 卓越研究員事業
- ▶ 大学の教育研究機能の向上
 - ▶ 卓越大学院プログラム
 - ▶ 知識集約型社会を支える人材育成事業
 - ▶ 大学教育再生加速プログラム(A.P.)
 - ▶ 地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)
- ▶ **大学の世界展開力強化事業**
- ▶ **スーパーグローバル大学創成支援事業**
- ▶ その他
 - ▶ 日本学術振興会の人材育成事業の充実方策について(第一次提言) (PDF:1.12MB)

顕彰事業

- ▶ 国際生物学賞
- ▶ 野口英世アフリカ賞 医学研究分野
- ▶ 日本学術振興会賞
- ▶ 日本学術振興会 育志賞

橙枠と赤枠は事務局にて付記。
 橙枠が国際交流関連事業。
 赤枠を次スライド以降で紹介。

■ 日本学術振興会 海外特別研究員

海外特別研究員

趣 旨

我が国における学術の将来を担う国際的視野に富む有能な研究者を養成・確保するため、優れた若手研究者が海外の特定の大学等研究機関において長期間研究に専念できるよう支援する。

事 業 内 容

対象分野	人文学、社会科学及び自然科学の全分野
派遣先機関	海外の大学等研究機関
支援期間	2年間(平成32年(2020年)4月1日～平成33年(2021年)2月28日に派遣開始)
申請資格 (主なもの)	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の大学等学術研究機関に所属する研究者(常勤・非常勤の別や任期の有無を問わない。)、又は、当該研究者を志望する者。 ・採用年度の4月1日現在、博士の学位を取得後5年未満の者。 ・採用年度の4月1日現在、大学等研究機関の任期の定めのない常勤研究職の職歴が過去通算して5年未満の者。 ・日本国籍を持つ者、又は永住を許可されている外国人
支援内容・支援額	<ul style="list-style-type: none"> ・往復航空賃 ・滞在費・研究活動費(派遣国により年額約450～620万円)
採用予定数	約130名(平成32年度(2020年度)募集要項)

■ 日本学術振興会 海外特別研究員

海外特別研究員 申請・採用状況について

採用年度		審査区分										合計	採用率
		人文学	社会科学	数物系科学	化学	工学系科学	情報学	生物系科学	農学・環境学	医歯薬学			
R3	申請者数	男	44	42	123	37	70	12	105	66	260	759	-
		女	25	27	107	34	61	9	82	47	222	614	
	採用者数	男	19	15	16	3	9	3	23	19	38	145	
		女	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
R2	申請者数	男	51	41	123	36	38	17	106	63	268	743	※ 22.2%
		女	22	26	108	32	33	16	91	52	226	606	
	採用者数	男	29	15	15	4	5	1	15	11	42	137	
		女	10	6	23	6	8	4	26	13	69	165	
H31	申請者数	男	7	5	22	6	6	4	25	10	60	145	23.4%
		女	3	1	1	0	2	0	1	3	9	20	
	採用者数	男	39	49	136	32	53	12	126	61	270	778	
		女	21	31	115	27	47	11	98	49	217	616	
採用者数	男	18	18	21	5	6	1	28	12	53	162		
	女	9	10	31	6	10	3	30	14	69	182		
採用者数	男	4	6	31	3	9	2	23	13	57	148		
	女	5	4	0	3	1	1	7	1	12	34		

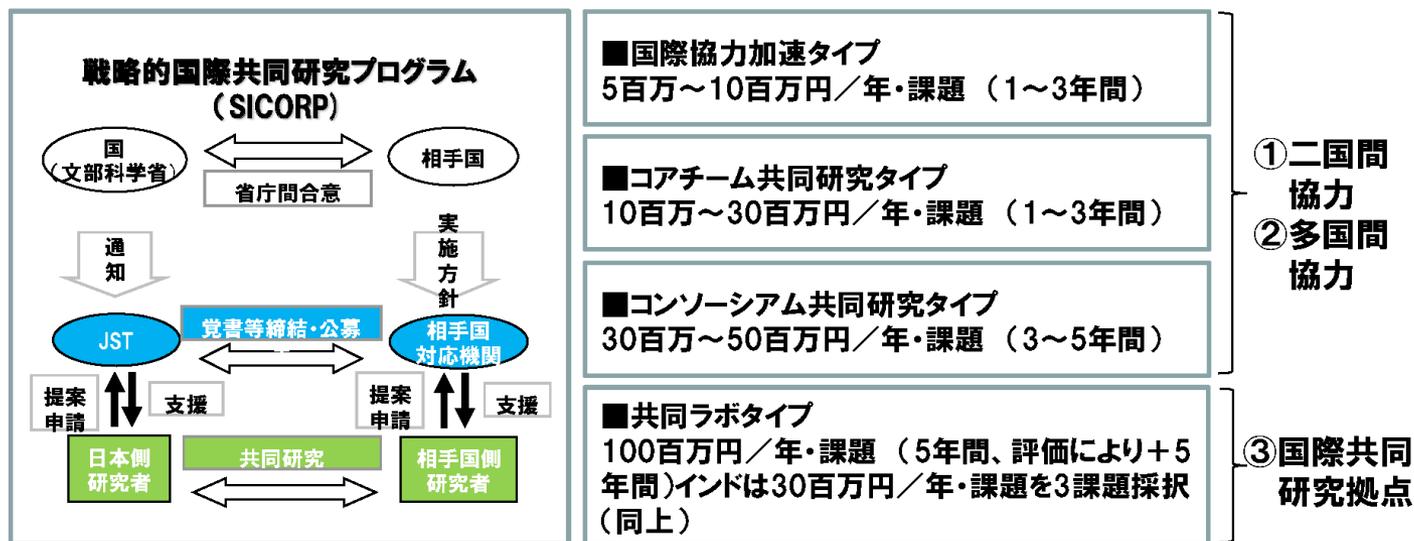
■ 科学技術振興機構(JST) 戦略的国際共同研究プログラム(SICORP)

(国際共同研究プログラムの更なる推進)

5. 戦略的国際共同研究プログラム(SICORP)

【概要】欧米等先進諸国やアジア諸国とのイコールパートナーシップによる協力枠組の下、国際共通課題の解決や我が国の科学技術外交の強化に資するとともに、諸外国との連携を通じた科学技術イノベーションの創出に貢献するために、国際共同研究を推進する。

【目的】国際共通問題の解決、国際連携による我が国の科学技術力の強化に資する成果を得る。



平成30年度予算額:958百万円、12ヶ国・地域 計75課題で協力中(平成31年3月時点)
日本ーロシア(MON)「北極観測および北極域における自然利用とエネルギー資源開発のための科学技術」共同研究において、平成31年1月より公募を開始した。課題採択後、研究支援開始予定。 3

■ 科学技術振興機構(JST) 戦略的国際共同研究プログラム(SICORP) セキュリティ研究に関連すると考えられるプロジェクトのみ事務局にて抜粋。

① 二国間協力(進行中及び過去のプロジェクトとして掲載されている約500件(前身の研究プログラムSICPを含む)のうち、以下がある)(1/2)

重要情報基盤保護(アメリカ)	
支援期間:平成18年度~平成21年度(2006年度~2009年度)	
アイデンティティ連携におけるリスクを考慮した個人情報共有方式	京都大学 情報学研究所 准教授 岩井原 瑞穂 Gail-Joon Ahn, Associate Professor, Department of Software and Information Systems, University of North Carolina at Charlotte
次世代ユビキタスネットワークにおける先端セキュリティ技術に関する研究	東北大学大学院 情報科学研究科 教授 加藤 寧 Nirwan Ansari, Professor, Department of Electrical and Computer Engineering, New Jersey Institute of Technology
次世代情報セキュリティシステムの設計と解析	東京大学大学院 情報理工学系研究科 教授 今井 浩 Mario Szgededy, Professor, Department of Computer Science, Rutgers University

支援期間:平成17年度~平成20年度(2005年~2008年)	
仮想計算機と仮想プライベートネットワークによる安全で効率的な情報基盤の構築	筑波大学 システム情報工学研究科 准教授 新城 靖 Pu Calton, Professor, College of Computing, Georgia Institute of Technology
安全で効率的なデータアクセス制御システムの設計及びそれに適した新たな暗号技術の創出に関する研究	産業技術総合研究所 情報セキュリティ研究センター 研究員 花岡 悟一郎 Keromytis Angelos, Assistant Professor, Department of Computer Science, Columbia University
ユビキタス環境におけるエージェント間の信頼に基づいた情報保護に関する研究	九州システム情報技術研究所 第2研究室 研究員 高橋 健一 Liu Zhaoyu, Assistant Professor, Software & Information Systems, University of North Carolina at Charlotte

支援期間:平成16年度~平成19年度(2004年~2007年)	
インシデント情報のモニター及び分析技術	情報通信研究機構 情報通信部門 グループリーダー 中尾 康二 Farnam Jahanian, Professor, Department of Electrical Engineering and Computer Science, University of Michigan
暗号技術に基づくプライバシー安全管理システムの研究	筑波大学大学院 システム情報工学研究科 教授 岡本 栄司 Rebecca Wright, Associate Professor, Department of Computer Science, Stevens Institute of Technology
日米サイエンスグリッドにおけるセキュリティ基盤の構築	産業技術総合研究所 グリッド研究センター 基盤ソフトチーム長 田中 良夫 Marty Humphrey, Assistant Professor, Department of Computer Science, School of Engineering & Applied Science, University of Virginia
トラストと安心に関する研究	岩手県立大学 ソフトウェア情報学部 教授 村山 優子 Carl H. Hauser, Associate Professor, Department of Electrical Engineering and Computer Science, Washington State University
フォレンジック手続ガイドラインの作成のための基礎的研究―日米において証拠の相互利用を可能とするために―	東京電機大学 工学部 教授 佐々木 良一 David A. Dampier, Assistant Professor, Department of Computer Science and Engineering, Bagley College of Engineering

■ 科学技術振興機構(JST) 戦略的国際共同研究プログラム(SICORP) セキュリティ研究に関連すると考えられるプロジェクトのみ事務局にて抜粋。

① 二国間協力(進行中及び過去のプロジェクトとして掲載されている約500件(前身の研究プログラムSICPを含む)のうち、以下がある)(2/2)

コンピューターサイエンスを含む情報通信技術(フランス)

支援期間:平成19年度～平成21年度(2007年度～2009年度)

計算機によって検証された安全性証明	産業技術総合研究所 情報セキュリティ研究センター 研究センター長 今井 秀樹
	Laboratoire Specification et Verification 教授 Jean GOUBAULT-LARRECQ

支援期間:平成17年度～平成20年度(2005年度～2008年度)

Provably Secure Software Technology and Its Applications with the Special Focus on Smart Card and GRID Applications	慶應義塾大学大学院 文学研究科 教授 岡田 光弘 東京大学大学院 情報理工学系研究科 教授 米澤 明彦
	Claude Kirchner, Scientific Leader, Projet PROTHEO, Laboratoire Lorraine de Recherche en Informatique et ses Applications, Institut National de Recherche en Informatique et en Automatique
Measurement and Modeling for Emerging Internet Applications and Security Threats	慶應義塾大学 環境情報学部 教授 村井 純
	Kave Salamatian, Associate Professor, Maitre de Conference, Laboratoire d'Informatique de Paris 6, Universite Pierre et Marie Curie

情報通信技術(フランス)

支援期間:平成22年度～平成25年度(2010年度～2013年度)

組込みシステムにおける暗号プロセッサの物理攻撃に対する安全性評価	東北大学大学院 情報科学研究科 准教授 本間 尚文
	国立パリ高等情報通信大学 通信電子学部 教授 Jean-Luc Danger

情報通信技術と他の分野を結合した複合領域(インド)

支援期間:平成20年度～平成24年度(2008年度～2012年度)

数理科学的手法による暗号アルゴリズム解析とネットワークセキュリティ強化評価	九州大学大学院 システム情報科学研究院情報工學部 教授 櫻井 幸一
	インド統計学研究所 応用統計学ユニット 教授 Bimal Roy
RFIDとセンサネットワーク向け暗号基礎技術とそれを用いた構成要素の設計および安全性評価	産業技術総合研究所 情報セキュリティ研究センター 副研究センター長 渡辺 創
	インド工科大学ルーラーキー 数学科 准教授 Sugata Gangopadhyay
動的かつ階層的な暗号鍵割当方式の安全性証明と学際評価	東京大学 生産技術研究所 准教授 松浦 幹太
	デルハニ・アンパニ情報通信研究所 教授 Anish Mathuria

③ 国際共同研究拠点(3か国・地域15件中、インドは情報・通信技術を対象としており、3件中、以下はそのうちの1件である)

インド

支援期間:平成28年度～令和3年度(2016年度～2021年度)【フェーズ1】

安全なIoTサイバー空間の実現	九州大学 サイバーセキュリティセンター センター長・教授 岡村 耕二 研究サイト: https://cs.kyushu-u.ac.jp/sicorp/
	インド工科大学 デリール校 コンピュータ科学工學部 教授 サンシバ・ブラサド

科学技術振興機構(JST) ホームページ
戦略的国際共同研究プログラムー研究交流実績ページより
各研究分野・研究拠点における項目は左がプロジェクト名、右上が
日本側研究代表者、右下が相手国側研究代表者を示している。

■ 情報通信研究機構(NICT) 海外研究者個別招へい制度

国際交流プログラム—海外研究者の招へい—



制度の概要

- 海外の研究者を受け入れて情報通信分野の研究開発を行うことを希望する国内の機関をNICTが支援
- NICTが研究者の渡航費、滞在等の経費を負担して海外の研究者を招へい

応募対象者

- 海外研究者の受入を希望する大学等、民間企業、その他の公益法人等の研究機関

研究者の要件

- 博士の学位取得またはこれと同等以上の能力を有する高度通信・放送技術分野の研究者。実績のある博士課程在籍者も可

制度のしくみ



■ 情報通信研究機構(NICT) 海外研究者個別招へい制度 直近3年に招へいされたセキュリティ分野と考えられる海外研究者のみ事務局にて抜粋。

・ 令和元年度(実績と予定): 全5名中2名

招へい研究者氏名	Liu Fukang
国籍	中国
招へい研究者所属機関	華東師範大学, 博士課程学生
受入機関	兵庫県立大学
受入責任者	五十部 孝典 准教授
招へい期間	12ヶ月
課題名	軽量共通鍵暗号の解析と汎用的な安全性評価技術の開発

招へい研究者氏名	Monowar Hussain Bhuyan
国籍	インド
招へい研究者所属機関	スウェーデン ウーメア大学
受入機関	奈良先端科学技術大学院大学
受入責任者	門林 雄基 教授
招へい期間	9ヶ月
課題名	ADEMS:ソフトウェア化されたネットワークにおける異常検知と解決

・ 平成30年度(実績): 全10名中1名

招へい研究者氏名	Dutta Sabyasachi
国籍	インド
招へい研究者所属機関	インド統計研究所・暗号セキュリティセンター・客員研究員
受入機関	九州大学大学院システム情報科学研究院
受入責任者	櫻井 幸一 教授
招へい期間	12ヶ月
課題名	分散大規模データにおける計算とストレージに関する安全性とプライバシー

・ 平成29年度(実績): 全11名中4名

招へい研究者氏名	Cid Carlos Frederico Amaral
国籍	アイルランド, ブラジル (2重国籍)
招へい研究者所属機関	ロンドン大学ロイヤルホロウェイ校, 情報セキュリティグループ教授
受入機関	九州大学マス・フォア・インダストリ研究所
受入責任者	安田 雅哉 准教授
招へい期間	3ヶ月
課題名	ポスト量子暗号に対する解読法の開発と安全性評価

招へい研究者氏名	Gábor Lencse
国籍	ハンガリー
招へい研究者所属機関	セチェンイ・イスヴァン大学 通信工学科 准教授
受入機関	奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科
受入責任者	門林 雄基 准教授
招へい期間	6ヶ月
課題名	IPv6移行技術のセキュリティに関する研究

招へい研究者氏名	Shaoning Paul Pang
国籍	ニュージーランド
招へい研究者所属機関	ユニテック工科大学 計算機学部 教授
受入機関	東京大学情報基盤センター
受入責任者	関谷 勇司 准教授
招へい期間	2ヶ月
課題名	ネットワークセキュリティに関するビッグデータ解析のための機械学習アルゴリズム開発

招へい研究者氏名	Michael William. David
国籍	米国
招へい研究者所属機関	国立インテリジェンス大学 科学・インテリジェンス工学部・教授
受入機関	国立大学法人九州大学
受入責任者	櫻井 幸一 教授
招へい期間	1ヶ月間
課題名	信頼できるスマートサイバーフィジカルシステムに関する連携研究